

令和3年度 第3回富士宮市総合戦略有識者会議 議事録

日 時：令和3年10月14日（木）午後1時～

場 所：市役所7階特大会議室

出席者：

（委員）鈴木清秀、土井一浩、荻野貴広、伊藤洋子、藁科可奈、太田美帆（6名）

（事務局）企画部長、企画戦略課長、地域政策推進室長、企画調整係長、花田（5名）

次 第：

1 開会

2 議事

（1）第2期富士宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略最終案について

（2）提言案について

※配付資料

【資料1】

第2期富士宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略取組方針一覧表（最終案）

【資料2】

第2期富士宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略（最終案）

【資料3】

第2期富士宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について（提案）

【参考資料】

令和3年度 第2回富士宮市総合戦略有識者会議議事録

3 閉会

意見交換：資料に関して事務局から説明を行った。各委員からの意見は以下のとおり。

議事（1）第2期富士宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略最終案について

第1期からの変更点及び前回からの変更点を中心に説明

企画戦略課長：説明

【藁科委員】・前回、24ページの教育相談・指導体制の充実について、市の公式LINEも始まったので、電話や面接、メールだけでなく、LINEを追加できないかと要望したところ、LINEだけという訳にもいかないもので、SNSを追加するか担当課と検討しますとの回答をいただいたが、メールまでの表記となっている。どういことか。担当課と検討した結果、子どもたちが一番活用している、ツイッターやLINEなどは相談の媒体として用いないということになったといことか。

【事務局】・担当課には、前回の質問等を配って確認してもらっている。担当課からは修正するという回答はなかった。メールという表記がLINEなども含めたものか

確認が取れておりませんので、再度確認し、4年間で対応できるということであれば、対応するように修正します。

(相談の基本は電話や対面で行うことを考えておりますが、相談の入口としては、LINEなどのSNSや様々な媒体を使用して、相談のきっかけとしていく。)

【藁科委員】・毎年、子どもが青少年相談センターのチラシももらってくるが、デザインは変わっているかもしれないが、電話番号と受付時間が書いてあるだけ。QRコードを付けて、公式LINEに登録でき、子育て・教育相談のサイトにつながり、メールを押せば、メールが立ち上がる。夜中でも助けてと書き込めるようなことを考えてもらいたい。

【太田議長】・相談者の立場に立ってお願いしますということだと思います。

議事 (2) 提言案について

提言案について事務局から説明

企画戦略課長：説明

提言案柱書の部分について

意見なし

総括的事項について

【藁科委員】・取組を検証しながら進めていただきたい。

【事務局】・第1期で立ち上げた、他都市に類を見ない特徴的な事業（世界遺産のまちづくり、食のまちづくり、ベビー・ステーション、富士山学習、富士ヒノキの家宮クーポン事業など）については、さらに磨き上げるとともに、第1期で取り組んできた取組についてしっかり検証することも大事ではないかということだと思います。全体に言えることだと思いますので、総括的事項の部分に追加させていただく。

【太田議長】・文書の後半を、「それらをさらに磨き上げ、事業の検証を行いながら、地域の特色を最大限に生かした取組を、より一層推進していただきたい。」というような内容になるかと思いますが、ぜひ入れてください。

・事務局で表記等について検討いただき、表記の仕方等については、議長に一任するということで異議ありませんでしょうか。

【委員】・異議なし

基本目標1について

【伊藤委員】・基本目標1では、健康・医療・福祉のことで防災・安全安心なまちのあたりがもう少し明確に盛り込まれると良いと思う。提言なので、どこまで盛り込むかはあると思いますが。

・働いてよしの活力あるまちというと、若い人の働く場所ということになると思う。労働者に関しては、企業に対してのことが多い。企業に対しての施策がなければ「働いてよし」とはならないと思うが、例えば、高校卒業して就業され

る方の早期の離職が問題になっている。目線を変えれば良かったが、活力を考えると、働く人の側に立った提言があっても良かったのではないかと思う。

【事務局】・基本目標 1、住みやすいまちづくりを進めていく上では、地域の交流や、自然環境の保全だけでなく、いろいろな要素がかみあって、住みやすいまちづくりが達成できるのではと考えている。現在の提言では、住みやすいまちづくりの一部の提言となっている。一つずつは難しいため、健康・災害・福祉なども含めて、住みやすいまちづくりを目指していただきたいといった一文の追加について検討したい。

・基本目標 4 の基本方針は、農林水産業や工業など産業に対する振興に特化した内容になっている。委員のおっしゃった部分は、基本目標 2 の「訪れてよし」の、(3) 移住定住人口の拡大など、人に焦点を当て、UIJ ターン者の促進など、移住してもらって定住してもらうための施策が、最終的には、移住定住人口の拡大につながると考えている。基本目標 2 の「訪れてよし」の部分に、人の部分は入れさせてもらっている。確かに、基本目標 4 だけ見ると、若い人の働く場の確保や、早期離職の問題などが読み取れないと思う。基本目標 2 は観光のイメージが強いかもしれないが、観光をきっかけに富士宮市に来ていただいて、そのまま働いていただき、定住していただくところに含まれていると思う。基本目標 2 に、今の課題に対して対応を図っていただきたいと追加させていただくことで良いか。

【伊藤委員】・今後は働く側のことも考えていかないといけないと思う。「なぜ 3 年以内に離職する人が多いのか。」「なぜ、戻ってこないのか。」きちんと分析して、対策のために高校の時代から何かしら取り組んでいかないといけないと思う。私の中では、基本目標 4 の「訪れてよし」の中に入れるのは、ずれていると思う。今後は、地域で働いている人や、働こうとする人を、どうサポートするかを考えていく必要があると思う。

【事務局】・若い人に戻ってもらうのは大切だと考えている。総合計画後期基本計画の中では、シビックプライド（郷土愛）の醸成を盛り込ませていただいた。郷土に興味を持って愛着を持っていただく取組（郷土愛の醸成）については基本目標 2 または、基本目標 4 どちらにするかはありますが、いずれにせよそういった部分が感じてとれるように、第 2 期総合戦略書にも追加させていただきたいと思います。

併せて提言書についても、追加をさせていただきたいと思います。

【事務局】・基本目標 4 の地域に根差した人材の確保、女性の活躍できる社会づくりが、高校生・中学生の段階から市内企業を知ってもらうとか、高校を卒業して市内で働いてくれたり、地元に戻ってきてもらいたい思いがあり、2 と連動した書き方となっている。「働いてよし」の活力ですので、こちらを踏まえながら、提言書の 4 の部分に労働者の観点が感じられる工夫をしたいと思う。現

在の取組としては、市内企業（働く場所）の紹介冊子などを作ったりしている。

【伊藤委員】・提言の中の言葉ということで意見を求められましたので、提言書の中にそのようなことが入ったらということです。

【太田議長】・今の議論は、提言案についてですので、本文の中でも、34ページに雇用環境の整備として、労働者の就労環境の整備を図ると書かれている。女性の活躍に向けて官民合わせた協力体制を図っていくことも書かれている。KPIにも市内で働く勤労者数があり、労働者にも着目して産業の環境を整えていくということを、提言案にも盛り込んでいただきたいと思います。

【事務局】・確認させていただきたいのは、郷土に対する愛着を育てないとUIJの施策をやったとしても戻ってこないことがないので、前段も含めてというふうに捉えたのですが、そういう気持ちにさせる取組を追加した方がよいのかと思ったところでは。

【伊藤委員】・基本目標4のところだけ考えていたので、富士宮愛を築いて、ここで働きたい、ここで住みたいと思ってもらうのは分かりますが、該当するかどうかとわかりません。すみません。

【太田議長】・基本目標4に、企業だけでなく労働者の視点もということをお願いします。

【藁科委員】・基本目標3が出会い・結婚・出産に特化した内容なので、進学して出て行った学生が、この内容を見て、このまちに帰ってきて就職したいと思えるか。

・前回の人口減少に関する市民アンケートでは、結婚しない理由として、「出会いや交際のチャンスがない」が多かった、今回は「一人であるのが気楽だから」が一番多かったと事務局から説明があったにも関わらず、提言に婚活推進のことしか感じられないのは不安。

・市民アンケートで、市民の意向が出ている。一人であるのが気楽という時代になっている。よそから、どう人を獲得していくのかの戦略でないと、生き残っていけるのか心配。

・婚活事業の成果については、結果が把握できなかったり、女性の人口流出状況が改善されていない現状を踏まえたものになっているのか。多様性ある生き方を尊重する富士宮を目指していきたいと思うので。その延長の中で、ここなら結婚してもいいなとなっていくはず。「人口減少だから産めよ増やせよ」となるのはどうなのか。帰ってきたいか、不安になる。

【事務局】・総合戦略の策定目的が、人口減少の克服、地域の活性化を目標とした計画なので、そこはぶらす訳にはいかない。結婚しない理由として、「一人であるのが気楽だから」が一番多かったのは結果として出ている。提言は出会いから子育てまでの切れ目ない支援をうたっており、それについては引き続き必要なことだと考えている。若者の意識をもう少しそちらに向けることは必要だと思う。結婚したくないのを無理にするのはどうかと思うが、そういった

気持ちになるような施策については、表記しても良いと思う。

・市内の大手企業と市長との座談会があった。企業から、製造ラインがあるが、市内の10人ほどの採用枠があっても、男性ばかりの応募で、半分は女性を採用したいが応募してこない。原因が分からない。若い女性に向けたPRを市と一緒にやっていただきたいといった意見があった。働く環境の整備については、行政と民間企業が連携して取り組んでいかないと課題の解決に向けて進んでいかないと考えている。事務局側としては提言内容に、官民連携して取り組むことを加える必要があるのではと考えている。

【太田議長】・藁科委員からの論点について、他にご意見はありませんか。

・コロナ禍において、さらに加速する少子化を少しでも食い止めたいという行政の気持ちはよくわかる。しかし、市民の側からすると圧力に感じてしまうという点もあるかもしれない。

そのため、私からの提案としては、富士宮市の長期的な活力維持のため、女性の人口流出や少子化は喫緊の課題である。官民が協働し、市民が多様なライフスタイルを実現できるよう、出会いから子育てまでの切れ目のない支援の強化を図っていただきたい。というような表現ではいかがでしょうか。細かくはご検討いただければと思う。

【鈴木委員】 全体的なことで、第2期の戦略については見直しするところは見直しされており、バランスよく入っていると思う。基本目標1では、環境問題を示していますが、今年の春先に、市もゼロカーボン宣言していただきましたので、会議所としても精一杯取り組んでいただきたいと思う。

基本目標4ですが、ここ1～2年の会議所会員の脱退理由を見てみると、廃業が増えている。個人事業主が中心だが、廃業と事業主の高齢化が増えている。ビジネスコネクトを核に商工団体と金融機関等との連携強化が必要だと思います。地元の企業・事業主を元気にしていきたい、相談に乗ってきたいと思いますので、引き続きビジネスコネクトに取り組んでいただきたい。

【荻野委員】・提言については、4つの目標ごとに簡潔に書かれており、この下にはたくさんやらなければならない施策があって、コロナ禍で進めにくい状況で約1年半、苦勞されているのは理解できる。これだけ多くの施策があるので、できること、できないことがあると思うが、一つひとつ活性化していただき、早めできないものは入れ替えるなど見直していただきたい。

・地域の現場の実態として、コロナ関係の資金繰りや、ゼロカーボン、事業承継、高齢化に伴う廃業など多くの問題や相談もある。環境も公共団体だけでなく、民間も意識をもって脱炭素に取り組んでいる。銀行もその支援の取組を始めたところ。脱炭素というと、太陽光や電気自動車の導入など費用負担があることから始めることが多い。民間企業がゼロカーボンに取り組む上での補助なども推進していただきたいと思う。

・RE100（自然エネルギー100）への取組の流れがきている。富士宮の民間でもやっていこうという動きが広がってきている。

・人口の問題については、日本の大きな問題。人口に関して首都圏は強い。神奈川県大和市などは人口減少に関する取組をしなくても人口が増えている。市だけでの取組は難しい。民間企業も一体となって進めていくしかないと思っている。30～40年後にも人口が減らないのは長泉町だけといわれている。何が違うかということ子ども医療の無償化など、お金のかかることをしている。また、新幹線に近いなどアドバンテージもある。しかし、長泉町は坪単価が40万円くらいと高い。市内では10万円台程度。立地的には不利なところもあるが、住むには富士宮市は良いところ。市の施策だけでは難しいところもある。やはり、行政だけに頼らず、民間も一体になってやっていきたいと思う。

【事務局】・人口減少や経済の話をいただきましたが、今回は人口ビジョンの見直しをしていません。前回の第1期のときは、2060年には9万人台になるのを、総合戦略などの特化した政策で11万人を維持したいとしたが、このフレームは9万人の傾向に向かったの角度に入っている。全国的傾向は同じ。もっと厳しい市もあると聞いている。子どもの少子化問題は大変デリケートな問題だが、将来の生産性を考えると、働き方や生活スタイルを変えたりしながら、豊かに過ごす、家族ということ意識していかないと、人口が間違いなく厳しい状況になる。先ほど、議長がうまくまとめてくれましたが、圧力にならないけれども大切なことだと思う。長泉町は、自治体から見ても特段のアドバンテージも感じる。私たちは違った面でアドバンテージがあると思っている。住んでいる子供たちにも知ってもらい、ここで就職したり、帰ってきてもらったりし、アドバンテージを生かしたまちづくりをしたいと思っている。廃業という厳しい現実。中小企業の事業継承も今後大きなテーマになってくると思う。意見としてありがとうございます。

【太田議長】・総合戦略は、今後富士宮市が長く発展していくための戦略ですので、行政だけが頑張るものではないので、官民一体となってというところが大切だと思う。先ほどは、環境のところを産業の側面で言うてくれましたが、総合戦略の中でも基本目標1の二番目の○のところの、ゼロカーボンシティの推進など、官民一体となって地球環境にやさしいまちづくりに向けた・・・とすると、みんなでやっていきましょうといった提言としてなるのではと思う。また、さらに市民とともに、また官民一体となってと入れると、富士宮市の富士山をみんなで、またその水を守っていこうという気持ちになったり、郷土愛の問題にもつながっていくと思うので、市民とか官民連携を基本目標1のところに入れていただければと思う。

【藁科委員】・議事録を送っていただいております。議事録はホームページに載っていますか。総合計画の議事録は、掲載されているのを見ることができた

が、総合戦略はホームページで見つけることができなかつたので。ここでのやりとりは交付金の評価しか載っていない。市議会議員の皆さんにも有識者からいろいろな意見が出ていることを踏まえて検討していただきたいので、このやり取りも市のホームページに掲載いただきたいと思います。今後、議会に諮っていくことになるので、情報を出していただきたいと思う。欠席の委員の皆さんにも内容に関してご意見がないかを確認いただきたい。

【事務局】 ・市議会全員協議会でも、深澤議員から有識者会議でのやり取りについての詳細を教えてくださいといったご指摘がありました。議事録は載せるということでお知らせしています。第2期総合戦略策定に関し議事録を掲載する予定でしたが、今後は、地方創生推進交付金の評価についても掲載するという方向でよろしいでしょうか。

【太田議長】 ・事務局から議事録を掲載してよろしいかということですが、よろしいか。

【委員】 ・異議なし

【事務局】 ・欠席委員にも確認はさせていただきます。前回は欠席委員からご意見をいただき反映させた。今回も意見があれば、時間的な問題もありますが、可能な限り反映させていきたい。

【太田議長】 ・事務局で調整させていただきます。議長に一任いただけますか。それでは、そのように扱わせていただきます。提言書案につきまして、大きな変更に関する意見はなかったと認識しています。

【藁科委員】 ・独身の女性に配慮した表現にしていきたい。こちらの第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でも、リンクして載せていただきたい。

【事務局】 ・若者が希望どおりに結婚し、子どもがもてるように・・・の表記を、結婚・出産・子育てを希望する若い世代・・・と修正している。表記の仕方については、見直しするが人口減少対策に対する施策についてはそのままでもいいかと思っています。

【太田議長】 ・22ページに女性が活躍できる社会づくりという項目がある。総合戦略を推進する上では、女性が活躍できる社会づくりにも配慮して進めていただければと思う。提言案の中では、先ほど提案したような形でお願いできればと思う。

【藁科委員】 ・移住した人が移住をあきらめて、市外に転出することがないようにしてほしい。移住したけれど、子どもが育てづらいたならないように、移住者に定期的にヒアリングして、次に生かしていくといった観点を忘れずに願います。

【太田議長】 長く、居心地良く居ていただけるように願います。

【太田議長】 少し事務局で調整するというので、表記については議長・事務局に一任するというのでよろしいか。

【委員】 異議なし